

白井第二小学校区まちづくり協議会設立準備会第4回会議事録（概要）

- 日時：令和3年5月29日（土）午後7時00分から
場所：公民センターレクホール
出席者：小林正継会長、染谷敏夫副会長、小松正信副会長、山本敏伸事務局長、渡辺康夫広報、永井英明書記、川上利一書記、山崎正司（中）、酒井正男（中峠団地）川鍋敏夫（折立）森山光男（富塚）山本忠昭（白井工業団地）岡田純一（今井）山崎嘉秋（名内）山崎一之（平塚東）大井信幸（平塚西）福田孝一（民生児童委員）小林清隆（高齢者クラブつくし会）海老原進（体験農園）伊藤忠昭（第二小）富澤好由・（森山光男）・滝田潔（まちづくりプロジェクト）川上達也（青少年相談員）金井勉（市民）市民環境経済部岡田部長 市民活動支援課松岡課長、高橋 公民センター折山副センター長、中島、金井
欠席：赤瀬幸子（おはなしの玉手箱）、山崎洋子（まちづくりプロジェクト）
傍聴：宮本照嗣
- 資料：①会議次第 ②資料1 白井第二小学校区まちづくり協議会とは ③資料2 小学校区まちづくり計画の策定について ④資料③まちづくり協議会への市の財政支援について ⑤資料4 目指す「第二小学校区の将来像」 ⑥第3回準備会 課題の抽出 ⑦第3回準備会会議録 ⑧第4 4回環境講座チラシ・環境塾 ⑨第5回資料 まちづくりアンケートとワークショップの意見から見た第二小学校区の地域課題

小林会長挨拶

議題（1）小学校区まちづくり協議会について

●山本事務局長よりまちづくり協議会とは何か、必要性等について説明

- ・都市計画の開発で同じ名称ものがあるが小学校区まちづくり協議会は別のもの
資料1で区内には10の町会、いろいろな団体が目的を持って活動している。
- ・現在地区と行政は目的別に補助金が交付されるなど縦割りの関係でつながってきた。
- ・縦割りは専門性を生かしたり1つの目的に重点的に取り組むには有効なため行政の所管課に合わせるように地区でも目的別、事業別に様々な団体や委員会等の役割ができ縦割りの活動が行われてきた。
- ・自治会・交通安全は市民活動支援課、地区社協は社会福祉課、高齢者関係は高齢者福祉課、環境保全活動は環境課、子ども会やPTAは教育委員会、工業・農業・商業関係は産業振興課 役所上がりの私が言うのも変だが長くこの形態を続け発展してきた。
- ・それぞれの団体や委員会等は地区にとって有意義で重要な活動を行っているし、今後もその活動は期待され重要度も増してくる。
一方、活発な活動を行っていてもそれぞれの団体がおたがいの活動内容を知らなかったり同じ目的の事業をそれぞれの団体が個別に行っているような縦割りの弊害も見受けられるようになってきた。
- ・10数年前からそれぞれの団体の組織力が弱ってきているのではないかと感じている。
- ・団体の役員の手が足りない。新規会員が少ない。会員数の減少・高齢化。解散した。イベント・行事が減った。できなくなったなどよく耳にする。
- ・原因は社会生活の変化と一言では悲しく感じる。このまま大好きな地元、第二小学校区が地域力をなくし、きずなが薄れ住みづらくなるのを見つめることはできない。
- ・現在、団体が一堂に会する機会が少なく横のつながりが生まれにくい状況だが、まちづくり協議会ではこうした縦割りの弊害を解消し、地区で活動する団体や委員会等の横断的な連携・協力体制を築くため新たに設置するもの。
- ・まちづくり協議会の設立により、今ある縦割りの利点にまちづくり協議会の視点による横のつながりを加えて、地域のことは地域で解決する、より強い地域力、地域コミュニティづくりにつなげていくことを目指している。
- ・新たな組織を作るのは、新たな業務が増えると考えるのが普通だが、現在の団体の現状を踏まえながら、全体で協議を重ね、できることからやっていければと考えている。
- ・全国的にまちづくり協議会の先進的な事例とか理想的な論議はあるが、第二小学校区にこれを当てはめていく必要性は高くないと思う。それより、自治会、委員会等多くの皆さんがそれぞれの長所を生かして協議を重ね、皆が同じ思いを持ち、できることから始めていく。少しずつ質の良い変化を生み元気な第二小学校区にしていきたいと感じている。
- ・まちづくり協議会は設立することが目的ではなく、活動を通じて第二小学校区の特徴や抱える課題などを見つめなおし、特徴にあった、その時々時代の背景に対応したまちづくりの形を自治会や委員会等、地区住民自らが考えていくことのできる体制づくりを目指す必要がある。
- ・具体的な事例が少なく理解しづらいと思うが、役員会の中で話し合われているのが、効果的・効率的に事業ができるよう、協議会の中に部会を設けていこうという提案がされている。

- ・考えられるのが、地域の防犯防災、環境保全や地域福祉、人々の交流、青少年の健全育成などの事業実施機関を作ろうという話があり検討している段階。
- ・初めからおおきな風呂敷を広げるのではなく、第二小学校区に最適な取り組みは何かを皆で考え、できることから実施していきたいと考えている。
- ・例えば、防犯部会では現在行っている防犯パトロールを月2度からPTAや有志と連携し、週1回に増やすとか、防災部会では第二小学校区の防災訓練を実施する。環境部会では、自治会や委員会等が合同でごみゼロ運動を広域に行う。交流部会では公民センター主催事業ほっこり市、まんぷく広場への協力。農業者と工業団地で働く人との交流イベントを実施するなど。また、各団体や委員会等が行っている行事・イベントを無理なく、より効率的・効果的にするための見直しをすることも欠かせないと思う。
- ・市内でまちづくり協議会を発足させた学区はまだない。大小区、三小区が準備会を設置し話し合いが進められている。
- ・市でも試行錯誤が多くあり、簡単な取り組みではないことは確かだが、少子高齢化、自然環境が他の小学校区より少し進んでしまっている第二小学校区では是非すすめていきたい取り組みであると強く感じている。

(2) 小学校区まちづくり計画の策定について(資料②により折山副センター長から説明)

- ・市にまちづくり協議会として認めてもらうため計画の策定が必要
- ・計画は、将来像、分野別の目標、具体的な取り組みのような形で作り上げる。
- ・視点として「なぜ」「何を」「誰が」「誰に」「いつ」「どこで」「どうやって」「いくらかかるのか」このうち、大事なところは●のついている「何を」「誰が」「いつ」「いくらかかる」でこれは必須
- ・次ページ2. 計画の体系イメージは例示で防災、防犯、健康・福祉・・・等で目標(基本方針)は短い言葉で記載する。
- ・事業名は、「青パトの実施」などを記載。予算は例として8万円、内容は「月2回実施」「登旗作成」など
- ・担当はどこがやるか「〇〇部会」などを記載。実施年度は3 4 5年度のうち実施する年度に○をつける。

(3) まちづくり協議会への市の財政支援について(資料③により折山センター長から説明)

- ・補助金の名称は「小学校区みんなでまちづくり補助金」
- ・交付対象 小学校区単位を基本に作られたまちづくり協議会
- ・算定方法 公平性を保つため「均等割り額」を基本に、「人口」や地域の特性「高齢化率65歳以上の地域内人口/市の高齢化率」「年少人口比率15歳未満の人口/市の年少人口比率」(両方とも割合が1未満の場合は1として計算)などを加味して算定する
- ・二小区の金額
均等割り50万円+人口割(100円×3107人/4月1日現在)×高齢化率1.3×年少人口比率1=90万3200円となる。・・・これは毎年交付される。

この他、拠点整備費(設立後3年以内で50万円)、まちづくり計画の見直し(設立3年目ごとに10万円)の特定加算がある。

- ・使い道
 - ①まちづくり計画に位置付けた事業に使える(1事業 交付額の30%以内)
 - ②組織運営に必要な通信費、光熱費、広報紙の発行、事務用品等の事務局運営費や事務員の人件費(交付額の20%以内)にも使用可能
 - ③備品購入費(交付額の20%以内)
- ・制限 市の他の制度による補助を受けた事業には使えない。
飲食目的の懇親会、反省会には使えない。
- ・地域まちづくり活動補助金
現在、自治連第二小学校区支部に交付している補助金は「小学校区みんなでまちづくり補助金」に発展的に集約する。
自治連支部の会議に要する経費は引き続き交付される。
現在の交付額 均等割り10万円+人口割30円×3107人=19万3200円
- 各自治会に交付されている「行政連絡交付金」「市民自治組織活動補助金」は変更なく現在と同様に交付される。

質疑 特になし

(4) 目指す姿「白井第二小学校区の将来像について」

進め方

- ・3グループ別れ、「資料4」の15個の案から良いと思うものを3つ選択し、選んだ理由も含めグループごとに発表後全体で討議し決定する

- ・ 15 個の案に限らず、新しいものや案を修正したものを選択しても可とする。

●グループ討議

各班討議結果

1 班	2 班	3 班
3	1 5	3 伝統と新しさが調和する <u>美しい里</u>
8	3	8
	4	1 3 自然・優しさあふれる <u>まち</u>
	2 班では里、町の漢字か、ひらがなかについて検討する必要があるとの意見が出された。	3 班、3 について <u>美しい</u> を追加した理由 不法投棄が多くそういうものがない美しい里になるよう希望として入れた。環境的な美しさ等 1 3 については町を漢字からひらがなに修正した

将来像の候補から選ばれたもの、3、8 については原案から一部追加、修正した案が提案された

- 3 伝統と新しさが調和する里
- 4 自然と共存できる町
- 8 自然と歴史に囲まれた心豊かな人がいる町
- 1 3 自然・優しさあふれる里
- 1 5 自然と歴史が息づく里

意見交換

- ・ 各班すべてに入っている 3 がいいのではないか。
- ・ 3 をベースに考えることとしてよいか・・・了承された
- ・ 美しい里ではなく「みどり」として、里をまちとしてはどうか
- ・ 緑には自然環境の良さなどもある
- ・ 緑は漢字とひらがながあるがひらがなの方がよいのではないか
- ・ 第二小学校の校歌に「みどり」が入っている 漢字かひらがなか？
- ・ 校歌はひらがなのみどり
- ・ 里、まちについて里は鄙びた感じを想定するのではないか

将来像について提案のあった中から 3 を基本に意見交換の結果を踏まえ

「伝統と新しさが調和するみどりの里」に決定

次回会議での検討事項

- ・ 具体的に何をやるかについて検討する。
- ・ 次回資料として A 3 版のまちづくりアンケートとワークショップの意見から見た第二小学校区の地域課題を 2 枚配布。役員を除く委員に、次回のグループ分けをするため希望を 1 位から 3 位までわかるようして記載したものを提出していただいた。

岡田部長感想

- ・ 二小区の出身。将来像について二小区にピッタリ、皆さんの力でまちづくり協議会を作ってほしい。

松岡課長感想

- ・ 大山口小学校区、第三小学校区すべての会議に出席している。
- ・ 自然と歴史が全グループで出た。他小学校区ではすべてのグループで同じものが出たものはない地域に対する思いの深さを感じた。
- ・ 「みどり」が第二小学校の校歌に入っているというのはこの地域ならではの意味づけがある。
- ・ 次回以降もいろいろアイデアを出し合い決めていってほしい。

次回日程

- ・ 第 5 回準備会 6 月 26 日（土）午後 7 時から